

て、まとめたものを敬老会に発表させた。子ども達は自分達で作ったものだけに自信満々で、お年寄り共々に、喜んで、楽しくリズム遊戯ができた。

そして今では、メロディーと全然別な伴奏でも立派に歌い上げること、口を大きく開けて歌うこと、強弱をつけて歌うことが出来る。また、私が伴奏を誤って弾いたり省略したりすると、抗議を申し立てる子どももさえてきたことは、誠に嬉しい悲鳴である。

(尚綱幼稚園)

私の経験したこと

本 城 光 子

今日もまだ外は寒そうだなと考えながら今出ていった子ども達の後姿に目をやった。子ども達は思いおもいの遊びに入っていた様子、さあ私も早く出て一しよに遊びましょう。部屋の中を手早くまとめて外に出た。「Kちゃんお入りハイ」となわとびをしている子ども「先生二階のあるお家だよ」とすべり台の

上から手をふるH、「ウ〜ウ〜ウ〜」と「ハイウエイパトロール」ごっここの五、六人の男の子が走ってくる。砂場でお山つくり懸命な子ども達など皆んながそれぞれグループになつて楽しく遊ぶ姿が庭いっぱいに広がった。その中ではお互いがルールを守ることが身につき、助け合い協力し合うことがごく自然に行なわれている。確かに入園の初めの子ども達には見られなかったものが、その中にある。子ども同志の結びつきが目に見えない世界で何かを生み出している。

二年保育児二十五名、(内男十一名女十四名)のクラスを私が受け持つことに決つた四月、まず初めに次のようなことを考えた。それは、初めて集団生活を経験する子ども達の間になんかして友達としての結びつきが生まれるのか、それがグループとして発展してゆくととき、リーダーとなる者、服従する者、反撥する者、無関心な者、周辺をうろつく者などの種々の特徴を把み、更に子どもの結びつきをよく理解し、ある時は、保育者の意図を含んだ結びつきをつくり、その中で子ども一人ひとりの個性を生かした保育を考えてゆきたいという……がある。

四月、五月の混乱の時期が過ぎると、そろそろグループとしてのまとまりらしいものが生まれて来た。男の子の積木あそび、砂遊びなどを中心に、同じメンバーがいつも集まつて遊ぶ様子がみられた。女の子の場合は、家の近くの子とも同志が一しよにいるか、または独りで遊んでいるのが多かった。この頃になつても先生の側が離れられず泣いたり、怒つたり、また乱暴したりして友達と遊べなかつたり、或いは少しも目立たず独りぼっちになりがちな子どもが何人か出てきた。そこで周辺をうろつくHを通しての私の経験をまとめてみたいと思う。いずれも心身共に特に欠陥はなく家庭的にも恵まれていると言えるがまず子どもの毎日の生活ぶりをよく観察し、同時に次の三点から、問題の行動を調べてゆくことにした。第一にその子ども自身の問題はないか。例えば、身体が弱い、或いは、非常な劣等感を持っているなど。第二に関心を寄せているグループ自体に問題はないか。自分の嫌いな子どもがその中にいる、或いは人数が多すぎる、または遊び方が活発すぎるなど。第三には家庭生活の影響である。第一、第三の点についての原因は、家庭と話し

合い、今までの家庭生活をよく理解し、その原因となるものを取り除く方向に努力する。

第二の点については、外にその子どもに適当なグループをつくってみるとか、その子どもが関心を寄せているグループの構成をその子どもを加えることによって、変えてみるとかの配慮を行なうことも必要となってくる。

Hは、家庭では、祖母と遊ぶことが殆んどで父母はあまりかまってやれず家の中で静かに育てられた。入園当初は少し押されたという泣き、怒り、反面自分の意が通らないと手を出す。何でも途中でほうり出してしまふ等がひどく、誰ともうまく遊べない。

しかし友達と遊ぶことには今までにない魅力を感じ非常な関心を寄せていた。にもかかわらず決して自分からは入っていかうとしな。まず家庭に対しては父母と過す時間を出るだけ多く持ち近所の子どもとも、大いに遊ぶ事をすすめる。幼稚園では、自分で出来ることは、一生懸命終りまでするように励まし、友達には、女の子を選んでその中で安心して遊べるようにしてみた。ままごと遊びに自分の役割を得たHは、今張り切っている。自信を持つことが出来たHがやがて活発な遊びの

中にも入っていきけるだろうと見守っている。

年少組の子ども達の保育に当って特に、子どもの間に生まれた子ども同志の結びつき的重要さを痛感し、保育カリキュラムに表面的には現れないが、何よりもその奥深くにある目に見えない世界での子ども達の心の動きを保育者がしっかりと把握、より良いものを生み出していくように、その場、その時を大切にして、誠意をもって努力したいものだと思う。子ども達は、安定した友達関係を得てこそ、始めて、各々の持味をそれぞれの場で十分に発揮し、生々とした生活を送ることが出来るのだろう。そして、この一年間をふり返ってみて、子ども達の内面的な動きを正しく把んでゆくために、保育者自身の心の目を豊かに養ってゆきたいものだ、つくづく感じるのである。

(平安女学院短期大学付属平安幼稚園)

一年の歩み

米内みさ

幼稚園の中に、また組の中には個人個人が作った大きささまのグループがいくつもあ。リーダー的な人の命令のままに動こうとするグループ、いつも破壊的な行動ばかりするグループ、消極的な人ばかりが集まるグループ、またグループには全然入ろうとしない人など……。それを座席により、また、仕事によって、或いは地域別、好きな人同志など、人為的に組む事によって溶け合わせる必要がある。

そこで、私もこの一年、二年保育の年長組を持って心がけ、また、子ども達がグループ活動と自立性においてこんなに成長したと思う事を二、三ふりかえてみたいと思う。

○体力的なグループ遊びにおいて

一学期の始めには、数人ずつのグループが砂場、ブランコ、ジャングルなど、主に遊具を媒介としてその場その場の結びつきを持っていた。このような遊びの時には、スクールバスで通っている影響もあって地域的な結びつきの方が強いようである。「御商売は」「開戦ドーン」「リレー」などの遊びにしても私共が中に入って一しょに遊ぶ事が多く私共がぬけるといつの間にかばらばらになってしまう。